

## 25 先生との思い出

朝、担任の田中先生が悲しそうな顔でおっしゃった。

「今日は、みなさんにお話があります。家庭のつごうで外国に行くことになりました。とてもつらいことですが、みなさんとお別れしなくてはなりません。」

「えっ、ほんと!」

「先生と別れたくないよ!」

とつぜんの話に、教室の中は、大きわぎになった。その日は、一日中、勉強に集中できないほどだった。帰りの会が終わり、先生が職員室にもどられても、だれも帰ろうとしなかった。

「遠足で、足をいためたとき、先生におぶってもらったことはわすれないよ。」

「わたしは、泳げなかつたけど、プールで先生に手をもって教えてもらったから泳げるようになったの。」

「わたしも、先生に何度も教えてもらって、長い文が書けるようになったわ。」  
「たかしくんと、いつもけんかばかりしていたけど、先生のおかげで、ぼくたちなかよしになれたね。」

今までお世話になったことを、つぎつぎに話しました。

「ねえ、先生との思い出を手紙に書いてわたそうよ。」

ひろ子の提案に、みんなが賛成した。

家に帰ったひろ子は、先生のことと頭がいっぱいだった。勉強のこと、運動のこと、休み時間にいっしょに遊んだことなどなど。

特にわすれられないのは、二学期のはじめに、算数の「分数」の学習をして  
いるときのことだ。

「この紙にかかっているケーキを、三つの同じ大きさに分ける方法を考えてみ

ましよう。」

と、先生は、まるいケーキの絵がかいてある紙を配くばられた。

ひろ子は折おり曲げたりしていろいろ考えてみた。しかし、正かくに分けられず、けつきよくものさしで一センチメートルのます目の一つずついいねいに書き始はじめた。

「ひろ子さん、その考え方を前に出てせつ明してください。」

先生が、そばに来ておっしゃった。

ひろ子は、どきどきしながら前に出て行った。そして、小さな声でせつ明した。ほかに三人が指名されたが、ひろ子と同じように考えた人は、だれもいなかった。ますますどきどきしてきた。

すると先生は、

「ひろ子さんの考えには、だれも気がつかなかったわね。今まで学んできたことを思い出して、一生けんめいに考えたのがいいですね。」

と、ほめてくださった。

みんなもはく手でこたえてくれた。算数がとくいでなかったひろ子は、先生やみんなからみとめられたことが、とてもうれしく、その日一日、うきうきした気持きもちちですごした。

このことがあってから、ひろ子は、少しずつ自分のやることに自信しんがもてるようになってきた。そして、算数の時間だけでなく、ほかの学習にも進んで取り組むようになった。

先生やみんなから、

「このごろひろさんは、とてもがんばっているね。」

と言われ、いっそううれしくなった。学校に行くのが楽しくてしかたなかった。いよいよ先生とのお別れの日がきた。みんなの手紙をまとめて、ひろ子が先生に手わたした。

「みなさん、心のこもったお手紙をありがとう。わたしの大切なたからもので

す。みなさんのことは一  
生わすれません。元気で  
がんばってね。」

みんなが、先生のそばに  
集<sup>あ</sup>まった。手をにぎってい  
る<sup>もの</sup>者もいた。

へ先生さようなら。これか  
らもがんばって勉強しま  
す。そしてときどき手紙  
を書いて報告<sup>ほうこく</sup>します。✓

ひろ子は、先生の目を見つ  
めながら、心の中でつぶや  
いた。

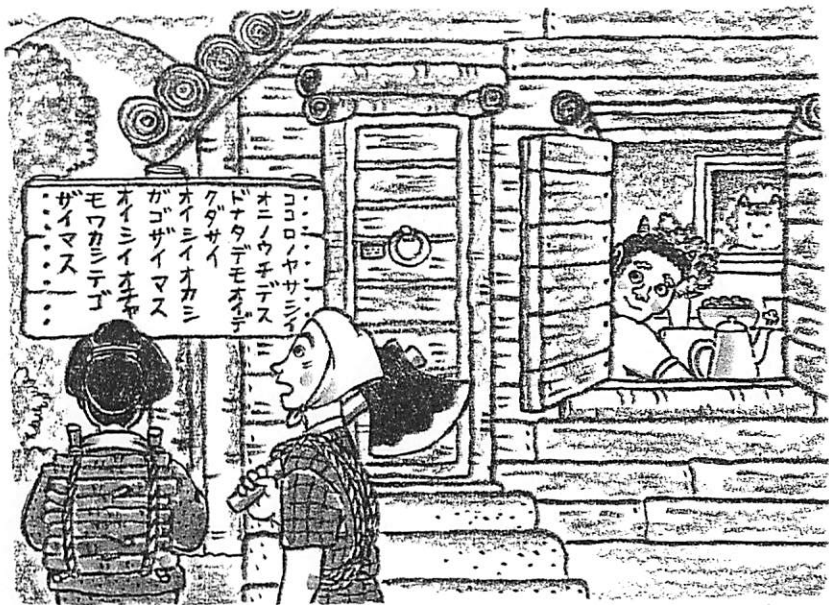
## 26 ないた赤おに

どこの山かわかりません。その山かげに、家が  
一けんたつていて、わかい赤おにが一人ですまっ  
ていました。やさしいすなおなおにでした。

「わたしはおにに生まれてきたが、できることな  
ら、人間たちのなかまになって、なかよくくら  
していききたいな。」

赤おには、いつもそう思っていました。そこで、  
家の戸口<sup>とぐち</sup>の前に、木の立てふだを立てました。

ココロノ ヤサシイ オニノ ウチデス。ドナ  
タデモ オイデ クダサイ。オイシイ オカシ  
ガ ゴザイマス。オチャモ ワカシテ ゴザイ  
マス。



## 25 先生との思い出

4-(4) 先生や学校の人々を敬愛し、明るく楽しい学級をつくるように努める。(愛校心)

### 1 主題設定の理由

〈ねらいとする価値について〉

日頃お世話になっている先生方に感謝の気持ちを持ち、進んで勉強したり、学級のために行動しようとする意欲を育てることをねらったものである。

学校生活の中では、いろんな人たちにお世話になっている。特に、先生方との関わりは大きい。そこで、先生方に感謝の念を持ち、自分たちも先生方の期待に応えられるように頑張ろうとする意欲を育てることが大切である。その意欲が、明るい学級をつくっていくこうとする原動力につながると考えられる。

〈子どもの実態について〉

この時期は、周囲の人の存在に気付き始め、友だちとの関わりも多くなってくる。当然、学級が自分たちのものであり、楽しい学級を作ろうとする自覚も芽生えてくる時期でもある。しかし、先生方が暖かく見守ってくれていることを忘れがちである。そこで、お世話になっている先生方を敬愛し、先生や学級の仲間と明るい

学級を築いていこうとする意欲を育てたい。

〈資料について〉

担任の先生が、急に学校を去らねばならなくなったことを知らされ、みんなは驚く。ひろ子たちは、今まで先生にはずいぶんお世話になっていたことを思い出し、お別れに手紙を渡すことを決める。算数が苦手だったひろ子にとって忘れられないことがあった。それは、「分数」の学習で先生が、ひろ子の考えを学級の前でほめてくださったことから、他の学習にも意欲的に取り組めるようになったことである。

ひろ子の先生に対する思いに十分共感させることにより、本時のねらいにせまりたい。さらに、ひろ子が意欲的になったのは、先生だけでなく、友達の良い励ましがあったことにも目を向けさせたい。

### 2 ねらい

先生方に感謝し、進んで勉強して、明るく楽しい学校生活を築こうとする意欲を育てる。

□板書

「みなさんのことは一生わすれないわ」

- ・先生にお世話になったことはわすれない。
- ・先生がいなくてもがんばろう。
- ・先生にいいほうこくができるようがんばろう。



田中先生  
やさしい先生  
親切な先生  
一人一人を大切にしてくれる先生

先生との思い出

ひろ子

- ・先生のおかげで勉強が  
おもしろくなった。
- ・みんなからもみとめ  
られた。
- ・学校へ行くのが楽しく  
なった。

### 3 展開

学 習 活 動	支 援 上 の 留 意 点
<p>(1) これまでの学校生活の中で、特にお世話になった先生や学校の人々のことを思い出し発表する。</p> <p>(2) 資料を読んで、話し合う。</p> <p>① 先生から「お別れしなくてはなりません。」と聞かされたとき、ひろ子はどんな気持ちだったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・とても信じられない。</li> <li>・どうして学校を去るの？</li> <li>・さみしくなるなあ。</li> </ul> <p>② みんなにとって田中先生はどんな先生だったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やさしい先生</li> <li>・親切な先生</li> <li>・しっかり勉強を教えてくれる先生</li> <li>・一人一人を大切にしてくれる先生</li> </ul> <p>③ 先生との思い出を考えているとき、ひろ子はどんな気持ちだったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さみしい。</li> <li>・先生のおかげで勉強がおもしろくなり、学校生活も楽しくなった。</li> <li>・先生に「ありがとう」と言いたい。</li> </ul> <p>④ 先生が「みなさんのことは一生わすれないわ。」と言われたとき、ひろ子はどんな気持ちだったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わたしも、先生にお世話になったことをいつまでも忘れず、がんばろう。</li> </ul> <p>(3) これからどんな気持ちで学校生活を送りたいかを考え、話し合う。</p> <p>(4) 今までお世話になった先生に手紙を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な体験を発表し合い、ねらいとする価値にかかわる意識がもてるようにする。</li> <li>・自分の経験を思い出し、ひろ子の立場で話し合うことができるようにする。</li> <li>・ひろ子の先生への思いの高まりに焦点をあてて考えることができるようにする。</li> <li>・ひろ子が進んで勉強しようという気持ちになったのは、先生だけでなく友達の良い励ましや容認があったことに気付くようにする。</li> <li>・学級の一員として一生けんめいやろうとする意欲がもてるようにする。</li> <li>・自分の生活を振り返ることにより、実践意欲が高められるようにする。</li> <li>・手紙を書くことにより、さらに実践意欲が高められるようにする。</li> </ul>